



【2018-01-24】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『経済が縮小していくほう
が、
いい時代？』

長野修二

経済が縮小していくほうが、よい時代？

経済が縮小していくのは少子高齢化の時代では当たり前のことだと、考えられます。

そこをどのようにして経済を拡大させていくかを考えるのが民間企業の力かも知れません。

しかし、GDPは一時の減少から回復してきましたが、現状の国内消費はなかなか増加してきません。

むしろ大手スーパーなどでは、年初にPB製品の値下げをおこなうことで消費を喚起しようとしています。

身近なスーパーやホームセンター、あるいはショッピングセンターへいってもお客の数が少ないことに気づきます。

[「デス・バイ・アマゾン」で次に消える日本企業の名前](#)

現代ビジネス 2018.01.23

もっとも、店舗販売は生鮮品などを除けば、アマゾンなどのネット販売へ移行していますから、店舗販売だけから経済の減少を判断するのは早計でしょうが、分析資料などから見ると「モノ消費」から「コト消費」へと消費構造の変化がみてとれます。

参考：[日本の流通課題と展望2017](#)/青山茂弘氏

あるいは、長期的なデータから分析している資料などを読んでみると、やはり給与所得の減少から可処分所得が減っていることで個人消費が伸びていないといったことのようにです。

詳しくは、「[所得ショックを乗り越え長期停滞を脱する個人消費](#)」三菱UFJリサーチ&コンサルティング/土志田るり子氏参考資料を参照してください。

さらに、年末から年明けにかけて大手銀行のリストラの話題など経済環境の悪化を憂慮するような報道も飛び交っていますから、消費者の心理としては財布の紐が緩むどころの状況ではないのではないのでしょうか。

昨年も多かった大手企業の不祥事などを考えれば、希望なき年明けといったところですよ。

この時代のやっかいな問題は、経済の成長が期待できないことと、日本における人口構成からして社会保障に関する税金が今後とも増えると予想されており、簡単なことではあらゆる世代の人たちが消費を増

やすことはないと考えられることです。

しかも、世界経済は、各国の政治状況や経済活動をもてもことのほか不安定になっており、我が国の国民が将来不安になっているのも理解できることです。

株だけは日々順調に上昇していますが、株などの投資をしている個人はあくまで少数にすぎません。

その一方、ジャパンライフなど「マルチ商法」へ手を出す人は、いつの時代でも結構いるものです。

このような詐欺に近い商売に手を出すよりは、株投資のほうがまだましかも知れません。

それでも2012年からの金融商品の利回りは、3%～約10%弱程度でしょうか。

私は株投資などやりませんから詳しいことはわかりませんが、もっともお金がないのが真の理由ですが、普通に株を購入して2012年から2018年まで保有していればの話です。

企業収益と株価だけは着実に上昇していますが、一般の人たちは、この先の経済成長を信じていないと考えられます。

とくに東京オリンピック後の経済環境に相当大きな不安をもっていると想像されます。

このような政策的な投資は、イベントが終わればあっという間に経済活動が縮小していくものです。

重要なことは、日々着実に研究開発や日常業務の改善、さらに新たなことに挑戦していくという人が本来もっている意志そのものです。

この意味では経済が縮小していく今、大企業ではあらゆる不祥事や事故が続発しており、経営の意思決定において抜本的な転換が必要になっていますが、そろそろ変えることができる最後のチャンスになるのかもわかりません。

他方、個人や小さな企業には、付加価値が高い商品やサービスを安価なコストで提供できるチャンスができてきています。

そのようなことはすでにいろいろなところで目にするようになっており、早晚多くの人たちが身近なところで挑戦する機会が増加してくるのではないのでしょうか。

日本人の悪いところでもあり、良いところにもなる「横並び」は、こと「挑戦」することに関しては、多いありでしょうか。

ただし、他人と同じことをやらなければという前提がつきます。この時代は人と同じものを欲しない人たちが多くなっていますが、まさに個人や小さな企業にはチャンスが訪れているように感じます。

年末から年初にかけて報道されている大手銀行のリストラは、今後の日本経済を象徴しているようでもあります。

経済構造の変化に対応できていないのですから、遅かれ早かれこれからも地方銀行を含めて淘汰が進むと思われます。

個人も企業も手持ち資金で稼ぐ時代ですし、どうしても資金が必要な場合はフィンテックなどを活用して資金調達をする時代に入っていますので、既存の金融システムが縮小するのもやむを得ません。

その分人材が放出され新たな分野で挑戦していく人たちが増えていくことでしょう。

必ず新たな機能や製品が生み出されてきますが、どこにでもあるようなものは淘汰されていきますから、自らが身を置くところがどのようなところかを認識しておくことは重要ではないでしょうか。

どの時代でも人の歴史とは、経済に限定してみても良い時代と悪い時代の繰り返しのなかで新たな息吹とともに新しい経済活動を動かす人が現れ今までにないサービスや物が生まれてくるはずです。

悲観的な状況もたくさんありますが、悲観的な状況だからこそ楽観的に考えていけば新たな挑戦ができる良い時代ではないでしょうか。

まさに時代が不安定だからこそ、挑戦する時代になっているとうことでしょう。

そこは間違いなく、多くの人にチャンスがある時代でもあります。